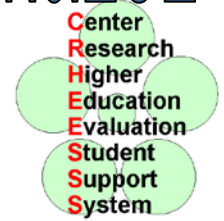


# 週刊センターニュース No.292



第292号(2010年1月12日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## ○●○ 第254回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 1月22日(金) 16時30分-18時00分 ※開催曜日が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

テーマ: 「未来への好奇心の種をまく!サイエンスコミュニケーション」

企画者: 末本 哲雄 (FD・ICT教育推進室)

講師: 矢野 真理子 氏、 武谷 真由美 氏

概要: 近年、日本各地で科学技術コミュニケーションが盛り上がりを見せている。科学技術コミュニケーションとは、単に科学ネタを分かりやすく伝えるだけではなく、複雑な社会問題を専門家と市民の共同から解決していく手段でもある。そのために両者の間における双方向の対話が欠かせない。市民の科学に対する関心が薄れていると指摘される状況で、専門家と市民を結びつける科学技術コミュニケーションに期待が寄せられている。

今回の共同学習会では、国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成講座修了生2名に講演をいただく。彼女らの実践活動や教育プログラムの紹介を通して、本学の科学コミュニケーションについて議論を深めたい。

## ○●○ アジア地域の高等教育の国際化戦略について① ○●○

2008年7月の「留学生30万人計画」骨子の発表、そしてそれを受ける形で、大学の機能に応じた質の高い教育の提供と留学生受け入れに関する体制の整備等国際化拠点の形成の取組を支援することを目的とした「国際化拠点整備事業(グローバル30)」が策定され、すでに13大学が選定された。政権交代を経て、昨年10月の日中韓サミットにおいて、3カ国が協力を進めていくべき分野の一つとして(東)アジア地域における大学間交流が取り上げられ、域内大学間の単位交換などシステム整備や交流プログラムの促進のための取り組み等、人材の流動化とアジア太平洋時代を支える人材育成を意図した高等教育の国際化というベクトルはさらに明確なものになったとみることができる。

中韓2カ国の国際化戦略の内容も参照しながら、主要な項目について簡単にみていくと、

- ・ (国費) 海外留学生支援  
近年中国は、公費派遣留学の拡充を図っており、注目されるものに2007年開始の「国家建設高水準大学公派研究生項目」があり、2007~11年の5年間に毎年5千人の博士課程学生の一流大学派遣が実施されている。海外の(日本も含め)大学にとっては、優秀な中国人学生の獲得のチャンスとして、留学生説明会などリクルートに積極的に乗り出しているところも見受けられる。
- ・ 教育課程の共同運営の活性化、複数学位の推奨  
この領域では、中国が関連法規整備など最も積極的(好例は「中外合作弁学」)で、国内で補いにくい分野の教育プログラムの受入れ、大学の国際化を推進し、併せて質向上を図ることも目指している。また近年、学位授与を伴うプログラムが増加しているという。韓国および日本においては、単位認定方針や講義の質保証等の課題のクリアなどもあって消極的な状況であるが、教育サービスの質に差異が生じないよう、国際的な合意基準に基礎をおいたシステム作りや、APQN(アジア太平洋質保証ネットワーク)等も含め関連機関による専門情報の提供・共有(情報ネットワークの整備含む)・協力が果たす役割は大きいと思われる。
- ・ 外国人留学生誘致と関連する支援の改善強化  
各国でブランド化戦略を掲げて、条件創出に大きく力を入れており、奨学金拡充の他、宿舎等住環境改善、留学生対象の医療保険制度の整備等福祉制度の改善などが講じられている。

- ・ 優秀な研究者の招聘（頭脳還流政策）  
中国では、海外での博士号取得後外国の有力大学で研究職を経験している高度人材を招致する「千人計画」（2008年発表）が、また韓国においても海外の碩学・研究者の招聘・活用の拡大を図っており、世界水準の講義の提供や、先端の知識技術の修得・活用および技術移転の促進などに役立たせている。またそのことが国内大学の教育改善を触発する契機になっているようである。
  - ・ 外国語使用授業や（母）国語研修プログラム拡大  
両国とも、英語による授業数（割合）の拡大さらに英語のみで学位が取れる学部等（経済・経営系、国際関係分野を中心に）の拡大など、具体的な達成数値目標を立てて、国際化に対応し留学生にとって魅力ある大学づくりを積極的に推進している。さらに、留学生に対する中国語教育ないし韓国語教育だけでなく、海外の拠点教育機関を設置するなどして海外における各国語の教育普及にも力を入れている。（次号以降に続く）
- 【参考文献】黒田千晴「連載 アジアの高等教育事情ダイナミック・アジア 中国の高等教育戦略（後編）」『リクルートカレッジマネジメント』159号、62-65頁、2009年  
韓国教育人的資源部・財政経済部他『高等教育の国際化戦略 2007年度推進戦略（韓国語）』（2007.2.28）（文責 評価システム研究部門 渡辺達雄）

## ○●○ 第7回大学教育セミナー開催のご案内 ○●○

近年、大学教育において、授業を教員から学生への単なる「知識の伝達」の場ではなく、教員－学生の双方向性、または学生間のコミュニケーションを通じて学ぶ、「知識の構成・再構成」の場として捉える考え方が強くなってきています。その状況下において、グループワークを中心とした問題解決学習、探求学習やプロジェクト学習など、アクティブラーニングと総称される、学習者の能動性を引き出す授業形態も導入されています。しかし、アクティブラーニングにおいて、教員は知識の伝達者だけではなく、学生の積極的な学習を支援する、いわばファシリテーターという役割を担うことになり、具体的なアクティブラーニング実施法について不明な点も多くあります。またアクティブラーニングは教員が主導する授業形態ではないことが多く、その授業形態を演出し支援する学習空間についても検討が必要となります。

そこで、本セミナーではまず日本で数多くの様々な教育実践、教育研究を取り組んでおられる白鷗大学教授 赤堀侃司先生より、アクティブラーニング実施の上で最も重要なことである学習者の能動性を引き出すために教員が考えるべきことについてご講演頂きます。また、アクティブラーニングの実践・研究をされている先生方をお招きし、アクティブラーニングの理論や実践、今後の展開についてご講演頂き参加者の皆様と大学教育のこれからについて活発な議論をしていきたいと考えています。  
主催：大学教育開発・支援センター 共催：大学コンソーシアム石川 後援：日本教育工学会  
テーマ：「アクティブラーニングが創る大学教育の未来」

日時：2010年2月22日（月）12:30 受付開始 13:00 開始

会場：金沢大学サテライトプラザ（金沢市西町三番丁16番地 金沢市西町教育研修館）  
プログラム

13:10-13:30 趣旨説明 山田政寛（金沢大学 大学教育開発・支援センター 准教授）

13:30-14:30 基調講演 主体的な授業を求めて－私の実践から－

赤堀侃司（白鷗大学 教育学部 教授/東京工業大学名誉教授）

14:45-15:30 講演 知識・技能・態度の全体的育成を目指すアクティブ・ラーニング

－授業デザイン評価の関連に焦点づけて－

溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

15:30-16:15 講演 学習空間とアクティブラーニング－東京大学 KALS の実践をもとに－

西森年寿（東京大学 教養学部附属教養教育開発機構 特任准教授）

16:30-17:20 パネルディスカッション 司会 山田政寛 パネラー：赤堀侃司、溝上慎一、西森年寿

※参加ご希望の方は件名を「2月22日大学教育セミナー参加希望」として頂き、所属・職名・名前・情報交換会参加可否を明記の上、2月17日（水）までに電子メールにて山田まで（mark@mark-lab.net）。